

第3回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

- 1 日時 平成29年1月26日（木）午後3時00分～午後5時00分
- 2 場所 上天草市役所姫戸統括支所 多目的集会所
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 座長挨拶
 - (4) 上天草高校より説明
 - (5) ワークショップ
 - (6) 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 上天草高校説明資料
 - 資料2 “上天草高校の特色づくり” などについて考えよう

6 議事概要

(1) 開会

○事務局より、平成28年度の第3回会合を宣言。

(2) 市長挨拶

（堀江市長）

- ・皆さんこんにちは。日頃から上天草市の「まち・ひと・しごと」いわゆる地方創生の推進にお力添えをいただきまして改めて感謝を申し上げます。
- ・今日は今年初めての会議で、昨年秋にオープンしたこの姫戸統括支所を会議の場所に選んでいただいた。施設の名称は「姫戸地域振興センター」で、行政の拠点のみならず、まちづくりの拠点になって欲しいとの願いが込められている。こういった会議に利用いただけることを嬉しく思う。
- ・平成26年から取り組んでいる本事業は、昨年熊本地震によりかつてない災害に見舞われ、多くの自治体にダメージがある中、これから本来の本当の復興に向けた取り組みが始まる。
- ・最後に本市は、県内では比較的被害が少ない地域だが、昨年前半は地域経

済に特に大きなダメージを受けたが、皆様方のご努力のおかげで、上天草に日常が戻りつつあることを実感した。

- とにかく地方創生の土台は本市にはなく、5年10年の長いスパンで取り組んでいくべき課題であると認識しており、これからも皆様方のお力添えをお願いしたい。
- 今日のテーマは「上天草高校特色づくり」となっている。上天草高校が毎年実施しているバザーやウォーキングなど、生徒が市広報誌の特派員になって情報を掲載している。地域に貢献していただいております、行政としても通学支援や奨学金等の様々な支援をしているが社会環境の変化等もあって生徒数が減少しているのが現状。
- 将来を担う子供たちの教育は義務教育も高校教育もそれは目的として変わらないし、上天草高校から全国に羽ばたいて地域を担う人材を輩出してほしいという願いがある。また、地域と高校が連携しその後の相乗効果が創出できればと考えている。
- 今日は市職員も出席しているが、民間の方も多く出席されているので、それぞれの立場を超えて、ご意見をいただければありがたい。また、皆様方のご意見を踏まえて今後の市の取り組みに我々も知恵をお貸しいただきたいと思っていますのでよろしくお願いしたい。

(3) 座長挨拶

(田中座長)

- 皆さんこんにちは。熊本大学の田中尚人と申します。今年は復興元年ということで熊本は頑張っている。ここの上天草で一昨年からは検討している希望校の取り組みが熊本の復興に役立っていることを皆様に報告させていただきたい。
- この上天草で色々勉強させていただいたことが、益城や西原村などの復興に結びついており、むやみやたらに新しいことを始めるのではなく、(地元のあらゆる)データに基づき、他のところの真似ではなく地域ならではの取組をやるのが大事。今日は、その大事な会議を私のわがままで姫戸で開催することとなった。以降も旧4町で持ち回り開催していきたい。(次回は龍ヶ岳町) 今回の姫戸では、姫戸町の皆さんは、是非ここで頑張っている話しをしていただきたい。

※市長は別の公務のため退席

※以降の議事進行は田中座長

(田中座長)

- 最初に上天草高校の田上先生から上天草高校の現状を話してもらうことにしているが、その前に今日何をするか少し話をしたい。

- 先ほど少し話しまが、今熊本では復興まちづくりに大体取り組んでいる。熊本地震が起こる前から問題になっていることが、今でも問題となっている。若者がまちづくりに参加しないと、年齢の高い方ばかりでしんどいとか、結局、地震が起ころうと起こらないと問題は一緒に、そんな時に僕が見せているのはこの図です。
- これは、（構成員の）片島さんの事務所で描いていただいた「上天草の地方創生の絵（公式）」という風に呼んでいます。このように人と仕事とお金がぐるぐる回っていくことが大事。今日の（テーマである）上天草高校にも関係するが、お子さんが、今の上天草高校では希望する大学に進学できないかもしれないなどの不安があり、熊本市内の高校に進学させるという話があり、高校の時から地元にはいないのは、その後の人生で（外に出て）帰ってきて熊本止まりとか、福岡や関西に出て、戻ってくることができないときに、どういうタイミングで帰ってくるのか。例えば、やっぱり熊本で就職したいというときに帰って来たり、子どもができて子育ての環境が良いほうがいいのか。他に、仕事で方向転換するために地元に戻ったり、無事に勤め上げた後など、様々なタイミングで帰ってくると思う。
- この「上天草に行きたくなる、上天草で自分らしく生きたくなる」では、そっちの方が大事になる。最近、U I Jターンという言葉がある。そうやって色々な人が上天草に住むことをプラスで考えてこの絵を描きました。
- 今年のちょうど今頃、天草が大雪になって水道管が破裂したことがあった。その時、僕は隠岐にいて、大雪のため、島から出ることができず、4日間帰ることができなかった。皆さんもポスターを見たと思うが、「ないものはない」というキャッチコピーがある。この言葉には2つの意味があって、ひとつは「開き直り」。ないものはないから仕方がないので今あるもので頑張ろうということと、もうひとつは、「実はないものなんてない。全てある。」という意味。確かに東京などの都会にあるものや、コンビニはないかもしれないが、目新しいものとか、豊かなものは東京には無いかもしれない。けどうちには全部あるという両方の意味です。こういうところで海士町は今注目されている。この海士町は、隠岐島前高校があって、ある年の入願者が38名だった。それまで2クラスあったが1クラスになってしまい、3年連続35名を下回ると廃校すると県から言われていた。その後、高校を魅力化して、今では80名定員となっているが、わざわざ島前高校への進学希望者が増え、「島留学」と言っている。中学生の時から海士町に移住して、（島外の）大学に進学する人もいて島前高校の魅力化は成功している。
- 昨年うちの教育政創研でシンポジウム開催した。「教育の場づくり」というテーマで海士町の取組は、成功事例ではなく挑戦事例であることや、島の子と留

学生がこういった化学反応を起こすというような話を聞いたりしました。

- 今日、正直、上天草高校は島前高校ほど深刻ではないと思う。それでもじわじわと上天草高校のピンチが近づいている。よく「ピンチをチャンス」という風に言うが、結局本気にならなければ何も変えられない。在校生が37人となると今後どうするかという話になる。県教委に対して町が何かを物申すのは大変なことではあるが、やるべきことはやらなければならない。
- 「島留学」は子どもを離島に預けることだが、どれだけ島留学をさせる親がいるか考える。実際に島留学をしている生徒に会ってきた。最初は、都会で落ちこぼれた人が田舎に行っているイメージだと思うが、皆さんすごくポジティブだった。おそらく彼女たちは都会にいても優秀だと思う。でも、都会だとやっぱり一対一の関係ができづらく、多数対一になるのに対して彼女たちは、よりよい環境で自分のやりたいことを見つけたいと言っていた。
- うちの大学に進学する高校生の中でもやりたいことがちゃんと決まっている人が何人かに一人いる。多くの学生は、やることを探しに大学に来る。島前高校の彼女たちは自分がやりたいことをすでに見つけていて、大学に進学することを選んでいくタイプ。高校1年生だけど、1年間ですごく変わっていました。熊本からは、玉名出身の子もいました。あとは高校の取組だけではなく、地域づくり団体に1ターン者が働いている。地域づくりは、学校だけでは当然できないので地域でも応援していて、(移住者が)長年地域の先生をしている。
- 島前高校が魅力化されたのは、大きく二つ。一つは、学習塾を始めたことと、もう一つは、島外の子どもを受け入れて「留学」の受け入れを始めたこと。この学習塾は、高度なことを教えるのではなく、勉強ができない子の補習時に自学が中心となる大きな学習センターがあるが、海士町の地元学を自分たちで課題を調べ、学ぶときに使われる学習塾。この学習塾には地域おこし協力隊が教育に力を入れていて、どんな学習が行われているか伺ってきた。
 - 素晴らしいと思ったのが図書館。図書館側も学びの場だということで協力されていて、ここではコーヒーも飲めて、ゆっくり本を読める。普通の図書館は静かに本を読むところだが、みんなで議論するスペースを設けてあり、地域全体が学校のようなもの。島前高校も施設としてはそんな恵まれているわけではない。寮もあって、三つの島が離れているので、条件的には不利だが、その分、安全な地域だし、怖い人がいないので、学校帰りの学習も取り入れている。かつ、勉強も頑張ることになっている。こういうことを上天草高校において取り入れられることを考えていきたい。
- 「ピンチはピンチ」と自覚することも大事だが、辛い時こそ上天草高校にこうなって欲しいとポジティブな気持ちを皆さんに持っていただけたらと思う。
- 田上先生から今の上天草高校の現状について教えていただきたい。

(4) 上天草高校から説明

(田上先生)

- 上天草高校から参りました田上と申します。
 - 私は上天草高校に赴任して5年目になり、最初の2年は教務主任をしていた。教務主任は、生徒の募集教科書を扱ったり、色んな統計を取ったり、そういった仕事をしていた。3年目からは学年主任をしており、現在は3年生の学年主任をしている。
 - 以前は生徒募集に関わる仕事をしていたが、上天草高校は、平成21年10月に開校しており、1期生が平成22年4月に入学した。現在の1年生が7期生となる。1期生が平成22年はで160名、2期生が143名、3期生が111名、4期生が96名、5期生が93名、6期生が92名、7期生が88名で入学者数が推移している。
 - 受験者数もこの数とほぼ変わらない。ただ、受験者に関しては、前期で情報会計科と福祉科で各20名ずつの募集となるで、前期で不合格になった場合は後期で挑戦することになる。定員割れではあるが、受験者数は入学者数より少し多くなる。
 - 私が赴任した平成24年に、生徒募集で何かやりましょうということで、学校説明会を開催し、来校してもらって部活動や模擬授業を見学して、いただいた。これは大矢野高校時代(統廃合前)から実施している。これに加え、地区別学校説明会を始めた。各中学校に出向き、事前周知用チラシの掲示や、生徒数分印刷して配布をお願いした。説明会は、市内及び市外併せて合計9か所(松島、姫戸、龍ヶ岳、大矢野、三角)で夜7時から1時間程度DVDやパワーポイント資料を使って本校の取り組みを説明した。
 - 次年度、大矢野は中学校の数が多いため、校区毎(4か所)で説明会を実施した。机上に配布しているパンフレットは、毎年作成しており、各学科(普通科普通クラス、普通科特進クラス、情報会計科、福祉科)の説明をしている。また、各学科における進路の状況も記載しています。今年は3年生を担当しているので詳しいところはわからないが、進路の状況を配布資料の後半部分に掲載している。一般求人は38名です。ちなみに就職に関しましては今年11月14日時点で内定率100%となっている。
- (※進路状況の説明については、資料に記載されているため省略)
- 資料の一番下に記載しているとおり、上天草市から上天草高校の生徒に対して色々と支援していただいている。地元の自治体が手厚い支援をしている自治体は少なく、上天草高校に赴任してから一番驚いた。

(田中座長)

- はい、ありがとうございます。今からワークショップを始めます。田上先生

にかなり聞きたいことがあり、上天草高校の生徒はどうしても熊本市内の公立高校の生徒と比べられるが、熊本市内の高校は、大学進学を見据えた特進クラスなどがある。地元としては地元に進学してくれる人材も大事だけど、親としては大学に進学してほしいから熊本市内の高校に通わせたいと思う。先生が実感している課題が具体的に何か先生のわかる範囲で説明してもらいたい。

(田上先生)

- 定員割れってことですが本校の定員は200名です。上天草高校創立以来、普通科3クラス120名、情報会計科が1クラス40名、福祉科が1クラス40名の計200名で生徒を募集している。1期生が入学した時が5クラス編成だったが、情報会計科や福祉科は一人であっても1クラスは確保されます。それに対して普通科は41名を超えたところで2クラス、81名を超えたところで3クラスとなります。2期生は入学したときは81名を超えたので、3クラスで編成したが、2期生が2年生に上がる時はもう普通クラスの片方が20数名、もう一方は40数名になり、1クラスになりました。1クラス抜けると二人の教員を減らすことになり、教員と生徒の定員のバランスの調整が難しい。上天草高校は、例えば理系の法学部へ進学を希望する場合、物理と化学の教員がほしいと思っていた。開校当初は験が少ない先生が多かったが、ここ数年はとにかく理科や数学で熊本市内や他の進学校でも経験したような教員が揃っており、国公立大学の受験対応ができる体制になっている。
- 福祉科に関しては4人しか受験していない。介護福祉士の国家試験は1月29日にあるが、本校の受験者は5人しかいない。今年は合格率が100%になると思っている。介護福祉士の勉強の内容は医学用語がありすごく難しい。管轄の違いで行程時数が異なる、この両方をクリアする必要があるので、福祉科の生徒は特進クラスの生徒よりも授業に出てくることになる。
- 情報会計科も他の学校でも通用する体制は整っている。
- 当初は、福祉科に入って医者になれると思っていた人がいた。それと、看護師、保育士、介護福祉士ではなく、福祉全般のいろんな職業に就けるとしている。介護福祉士になりたいと思って入学してきても、授業が合う合わないがある。私が赴任してきてからは看護師や医師を目指す人は特進クラスに進学し、介護福祉士になりたい人がうちに来てくださいとう説明をしてきた。それが良かったのか悪かったのかわかりませんが、福祉科の人数は減っている状況。
- 中学生は、漠然と分かったつもりでいることが多いことを知った。各学科のバランスが変わってきたところはある。それと情報会計科に関しては松島から通学する生徒が多い。普通科普通クラスは、大矢野出身者が多い。統合前の大矢野高校と、松島商業の風土が残っているような気がします。

(田中座長)

- ありがとうございます。上天草高校は3校合併している。上天草高校の課題は、地元の中学生の7割が市外の高校に通学しているのも課題として挙げられている。
- 最初に僕が聞いたときは、愕然とした。実は、今週の日曜日に熊本大学において上天草高校、矢部高校、菊池高校の先生方と地元の若者を集め、話し合う機会を設ける。さっき紹介した島前高校の取り組みが地域に密に関わっている。
- 熊本地震の復興において、大学生は期待されている。テレビでは見られない良い復興をしているところがある。中高生が率先して避難所で掃除をしたり、積極的に地元のコミュニティに参加しているから復興が早かった。
- 高校生の頃からなかなかふるさとってという考え方はもてないと思う。海士町の島留学を紹介したが、都会出身の子は、口が立つとか、頭の回転が速い。それに比べて島の子たちはのんびりしていて口数が少ないけど、都会から来た子が何でもできるかという、すぐになんでもやめてしまう。逆に、田舎の子は地道で、どんなことがあってもびくともしない。留学してくる子は都会の子で、口もたつし、シャキシャキしている。それぞれに一長一短があるが、両方を大事にしようというのがポイント。島前高校は、都会的なセンスと田舎のセンスのバランスングって言葉を使っている。ある程度外の人を入れないと自分たちがどういう状況かなかなかわかりにくい。田上先生が素晴らしいと思うのがこれまで他の学校に赴任し、今の上天草高校を見ているので、他との比較が可能となる。上天草高校らしい教育をしようと3つの学科設けてあるので、もっと盛り上げていくことを考えていただきたい。

(5) ワークショップ

- ワールドカフェ形式でワークショップをやりますので島を5つ作ってもらっていいですか、机二つ並べていただいて、1テーブルに5人ずつ座っていただきたい。

※座長よりワークショップ時の3つの約束について説明

- ①他人のことを否定しない。
 - ②人の話を聞く。
 - ③自分の言葉で話す。
- 皆さんに今から、「こんな上天草高校にしたい」とか、「こんな勉強ができるといいな」とかを話し合ってもらうだけです。ただし、普通に話すだと、ただ時間が流れてしまうので、テーブルクロス(広用紙)に書きながら話をしてほしい。では始めていきます。この5人で話すのは10分にし、席替えをしながら進めていきます。

- いきなりは難しいと思うので、最初は自己紹介をしてください。まず、各テーブルで名前とご所属と、好きな食べ物を言ってください。「私はこんな上天草高校になったらいいな」ということを一つずつ出して、一巡したからフリーにしゃべって思います。

(10分経過)

(田中座長)

- はい。終了です。今から席替えしますが、テーブルに一人残る人を決めます。誕生月が早い人が残ってください。他の人は全員別のテーブルに移動してください。
- 最初に一分間は移動してきた人がさっきこんな話があったとか、私はこう思うことがあれば書いてください。違うテーブルで聞いてよかったと思うことがあれば、それも書いてください。何回でも同じことを書いてもらってもいい。
- 高校の先生は毎日大変です。普通の授業に加え、部活の指導もしている。なので、地域の方が先生になってあげることとか、旅館の女将に先生になってもらうとかもうちょっと考えてもらえるとありがたいです

(10分経過)

- はいじゃあいいですかね。今書いている人はペンを置いてください。今度は、誕生月が一番遅い人が残ってください。その他の人は移動してください。色々な意見が出てきています。一流大学に合格したら100万円を支給するなど。僕も一つ考えたんだけど、何か一つ日本一になるのってよくないですか？田上先生に伺ってみましょう。

(田上先生)

- 一流大学に合格したら100万円を支給する取組は、他で確認したことがあります。それと朝ごはん。以前、他の学校でそういった取組。それも面白いと思います。(田中座長)
- はいありがとうございます。田上先生には後ほど実現可能な案がないか確認したい。

(10分経過)

- はい。皆さんありがとうございました。大体終わりましたのでペンを置いて元のテーブルに戻ってください。•さっき、自分たちが出したアイデアを簡単に発表してください。話をされていて良いと思ったのが、「地元の人が先生として授業をする」というのが面白そうだとおもった。高校の先生はさっきも言ったが大変なので地域の人たちが先生となり、地域と何かをやっていくというのは良いと思う。皆さんから出た意見は、田上先生に持ち帰ってもらいたい。一つくらいは市から予算をもらって実現したい。

※各班からの意見

(1班)

- マリンスポーツ科など魅力的な科を設ける。
- 経済的な理由により、上天草市への進学を諦めることがあるかもしれないので、寮を設置する。特待生なら寮代が半額又は無料にすることも可能とする。一人暮らしになると親も心配するので、寮だと安心できるし、寮に育ててもらうこともできる。

(2班)

- マリンスポーツ部を作って指導者を市が雇って、そしてそのマリンスポーツを日本一するために、SNSを活用して情報を発信する。生徒を集めることもできるし、寮ができるとさらに生徒が増える。

(3班) • 一つは地域の方々が先生になって町の産業などの授業をする。そういったことが(地元の)雇用に繋がっていく。先ほどSNSという言葉が出たが、SNSを使って子どもたちがSNSを使って情報を発信する。

- もう一つは、高校の進学の原因として「先生と生徒の仲が良い」ということが魅力のひとつと聞いたことがあるので、どんどん情報を発信したらいいと思う。
- 後は小中高と一貫した部活ができれば魅力が増すと思う。

(4班)

- 学校は地域を受け入れてくれれば、地域の方々を受け入れること。学校から依頼がなければ、地域の方々は学校にいけない。地域の方が持っている知識や伝統、例えば昔ながらの楽器や地域の歴史など、伝統的なことも伝えられると思う。そうすることで、さっきほど、ご飯とか給食の話がありましたけど、地域の方に、天草ならではの食材を使ったって加工するグループもありますのでそういう関係者も入り込みやすい。

(5班)

- 「高校4年生募集！」ということで、地域の人たちが高校の中で活躍できる場を設定する。共に学んで支えあうようなことができれば、魅力的な地元の人たちが魅力を感じるころから始まる。例えば地域の方が先生になるとそれで借金で失敗しない企業の皆さんもいっしょになってできる。

(田中座長)

- この班みたいにキャッチフレーズを作ろうと思います。それぞれ素晴らしいアイデアなので、5分間で考えてください※5分経過

(田中座長) • すいません時間になったので、今度は5班からおn

(5班)

- 「一緒に部活をしよう」を追加

(4班)

「地域と共に学ぼう！！」

(3班)

「教えて！（せーの）わがえん（我が家の）先生！」

(2班)

「海と友達になろう」又は「イルカと泳ごう」

(1班)

「家庭で学ぶこともあるでも寮で見つける自分もあるんだ！」

(田中座長)

- 素晴らしいですね。田上先生に優劣を判断してもらうのは難しいと思うので、是非持ち帰っていただきたい。これまでの地方創生の会議の中で今日の会議いつもと違った。お金（予算）使うことを考えがちだが、お金がなくてもできることが意見として出たので現実的だと思った。一番最初に言ったが、昨年までは手探りだったので、何をすればいいかわからなかったが、今年は、「上天草高校の魅力化」というすごく大事なターゲットとなっている。今日出された意見は全部実現できそうだし、内容を具体化すれば来年度の予算化に結び付くと思う。
- 確かに奨学金制度って大事だが、「特色」というのは必要だと思う。たくさんではなくともひとつでもいいので、「上天草高校に行ってよかった。」と思えるような魅力により色々な方面に結び付けていけたらと思う。•今日はこれで終了します。ありがとうございました。

(6) 閉会

(事務局)

- それでは、これを持ちまして第三回まち・ひと・しごとの創生推進会議を終了いたします。ありがとうございました。

第3回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議 出席状況

上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議構成員 会議・懇親会（出欠）

H29.1.26

区分	所属等	氏名	会議	懇親会
1	一般社団法人天草四郎観光協会 事務局長	杉本 健一	×	×
2	あまくさ農業協同組合大矢野統括支所 指導販売課長	宮内 勝幸	×	×
3	株式会社マルマサ浜田鮮魚 取締役	濱田 真和	×	×
4	北垣水産	北垣 洋	○	×
5	株式会社隆勢 代表取締役	岩崎 敏治	×	×
13	総務企画部総務課 参事	泉田 利博	○	×
14	総務企画部監理課 係長	瀬脇 和弘	○	×
15	経済振興部産業雇用創出課 課長補佐	岡元 宏洋	○	○
16	経済振興部観光おもてなし課 参事	入口 絢光	○	○
17	健康福祉部福祉課 主事	瀬内 雄大	○	×
18	健康福祉部健康づくり推進課 参事	寺 美有希	○	×
19	教育委員会事務局教育部学務課 主事	小山 貴良	○	×
20	教育委員会事務局教育部社会教育課 係長	篠田 良	○	×
21	熊本大学政策創造研究教育センター 准教授	田中 尚人	○	○
22	熊本県立上天草高等学校 教頭	後迫 泉	○	×
23	株式会社肥後銀行大矢野支店 支店長	岩原 慎一郎	○	×
24	株式会社熊本銀行大矢野支店 支店長	矢田 健一郎	○	×
25	天草信用金庫企業業務部・地域創生室 理事部長	渡邊 一成	○	×
26	もりのともしび デザイナー	片島 雄一	×	×
27	もりのともしび デザイナー	片島 荷風	○	×
28	上天草市セカンドライフ支援ネットワーク 会長	木下 榮	○	×
29	姫戸ひかり保育園 副園長、寺院僧侶	深谷 恵了	×	×
30	社会福祉法人上天草市社会福祉協議会地域福祉課 主事	船元 亜梨沙	○	×
31	熊本県総務部市町村課 参事	上野 誠喜	×	×
32	熊本県天草広域本部 総務部長(代理：総務振興課 杉本課長)	一 喜美男	○	○

18

4